

令和4年3月8日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・ 県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
三木市立豊地小学校	三木市教育委員会	国・ 公 ・私

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

三木市においては、次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、とりわけ伝統産業である三木金物の素晴らしさを伝え、我がまち三木市を愛する豊かな心を育むとともに、ものづくりを通じて自ら考え、生きる力を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」体験を中心とした「外国語活動」に取り組む。

(3) 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

ア 実施体制

第1学年は学級担任（HRT）とALT、第2学年は教科担任とALTのチームティーチングによる「外国語活動」を実施している。本校ではALTによる指導日を主に月曜日と木曜日に設定し、中学年の「外国語活動」及び高学年の「外国語」の授業を優先しつつ、低学年の指導の時間を確保している。

イ 指導計画及び授業の内容

第1・2学年では「話す」「聞く」ことを通して、英語による表現に親しむことをめざしている。具体的な授業内容は、三木市の「話せる英語教育」の年間カリキュラムを参考にしながら、ALTや友だちと「英語のあいさつ」「絵カードを用いたアクティビティー」「英語のゲーム」「英単語の発音練習」「英語の歌や音楽を用いた活動」「絵本の読み聞かせ」等を通して、音声やリズムを中心とした言語活動を多く取り入れていくとともに、主体的にコミュニケーションを図っていくことに配慮している。

また、授業のはじめと終わりに「めあての設定」と「ふりかえり」の時間を確保し、英語で何ができるようになったかを自分自身で確認するように促している。

低学年という発達段階を考慮し、授業だけでなく、休み時間や給食の時間、清掃

時間などにも ALT とともに時間を過ごし、少しでも英語を身近に感じることができるよう工夫もしている。

さらに、効果的な授業展開に向けて、ALT との連携強化に努め、授業内容について事前にメール等で通知するとともに、当日にも教材の確認や指導内容について学級担任（HRT）や教科担任と共通理解を図り、指導を行うようにした。

（４）情報提供の状況

外国語活動の学習の様子は、学年通信や学校ホームページで保護者や地域の方にお知らせしている。また、学習の中で顕著な学びが見られる児童については、通知表の所見欄において、文章表記によってお知らせしている。

（５）特例の適用開始日及び、取組の期間

- ・ 特例の適用開始日 ：平成 28 年 4 月 1 日
- ・ 変更した特例の適用開始日 ：令和 2 年 4 月 1 日
- ・ 取組の終期 ：今後も継続した取組を予定

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

（２）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

3. 実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の教育目標は、「志をもち こころ豊かに たくましく 学び続ける子の育成」であり、目指す児童像の一つに「自分を大切にし、多様な他者と協働する経験を通して、認め合い高め合う子」と掲げている。本市においても外国籍の人が増え、6 年生が来年度進学する中学校においては、外国籍の生徒がいる。そのため、グローバル化が進む社会で外国語を通して自分の想いを表現し、相手の想いを理解できる児童を育成すること

は大変重要であると考えます。そこで、低学年から外国語を通じて、他国の言語や異文化について理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てている。

(2) 実施の効果

低学年から ALT と教員とで外国語活動を行うことにより、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができている。ALT の母国の文化や生活の様子を写真等で紹介してもらうことで、いろいろな国に興味をもつ児童もいる。また、歌やゲームを外国語で行うことで楽しく外国語の表現に慣れ、前向きに話すことができている。さらに、休み時間や掃除の時間に一緒に活動することで自ら声掛けをしたり、遊びに誘ったりと積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られた。

4. 課題の改善のための取組の方向性

色や形、体の部分、動物の名前等身近なものを英語で表すことに楽しんで取り組んでいる。しかし、時間数が限られるので学習時間が空くと忘れてしまう。そのため、給食の時間の放送や英語週間を設けることで、日頃から英語を身近に感じられるようにする。

三木市全体の小学校で特別な教育課程を編成しているため、同一歩調で英語活用能力の向上を図る必要がある。現在、市内の外国語活動研修部会が中心となって、「フォニックスに関する研修」「授業活性化に関する研修」「評価に関する研修」について研究を進めているが校内では、まだ共有できていないこともある。今後は誰もが同じ歩調で指導できるようにカリキュラムの作成が必要であると感じる。また、進学先の中学校と相談しながら、9年間の学びを研修していく必要があると考えている。